目次


I 皇族の作られ方 三

第1章 枢密院会議 伊藤博文の迷走 一四
永世皇族制度確定／反対した人々／意外な採決結果／伊藤の本心／天皇の意向

第2章 宮家新立 曲げられ続けた原則 二六
四親王家と新しい宮家／新政府の財政問題／崩れる原則／皇位継承への不安／「五世以下」

第3章 皇室典範増補 四八
「非望の端」／帝室制度調査局設置／皇室典範増補制定／駆け込み宮家／小松宮家と東伏見宮家

第4章 降下準則騒ぎ 六八
制定までの経緯／皇族たちへの配慮／怒る山県有朋／反対する皇族たち／賜餐ボイコット／臣籍降下

# II 皇族と軍隊


## 第5章 明治初期の皇族と軍と戦争 八七

天皇の変貌／戊辰戦争と熾仁親王／海軍総督となった親王／若き征討大将軍／佐賀の乱への「出征」／西南戦争と皇族／若い皇族の「見学」／皇族の義務／軍人への道

## 第6章 軍学校と皇族たち 一〇七

海外での軍人教育／依仁親王と仏海兵／外国での特別待遇／軍学校での処遇／皇族たちの気持ち

## 第7章 海兵での高松宮宣仁親王 一二六

海兵予科入校／はげしい孤独感／陸幼での雍仁親王／卒業までの宣仁親王／皇族としての仕事

## 第8章 皇族たちの昇進と人事 一三五

陸軍の皇族の昇進／海軍の皇族の昇進／「進級内報あり。残念なことだ」／二人の皇族参謀総長／陸軍での人事／海軍での人事

## 第9章 戦場と皇族たち 一五四

日清戦争と皇族／戦病死した親王／天皇の危機感／日露戦争と皇族／日本海海戦に参加した皇族／二つの武勲談の謎／大東亜戦争と皇族／危険な戦地に行ったのか／元皇族海軍軍人の運命／南京事件と鳩彦王／巣鴨に収監された皇族

III 二人の皇族と事件 一八一

第10章 ドイツ女性との婚約 一八三
「悲劇の親王」／ドイツ留学／マボロシの国際結婚／二度目の謹慎

第11章 華族になった二人の少年 一九一
隠し子あらわれる／なぜ皇族になれないのか

第12章 稔彦王帰国拒否事件 一九六
稔彦王という皇族／フランス留学／帰らぬ王／二人の説得使／宮中首脳たちの決意／天皇危篤と妃の悲痛な電報／宮内大臣の確約／陪食拒否という過去／皇女との結婚／帰国後の王／皇籍離脱希望の真の理由／結局、臣籍降下せず

第13章 皇族総理大臣 三八
周囲にうごめく軍人たち／神兵隊事件と王／擁立の動き／石原莞爾たちの策動／何故、期待をかけられたのか／総理大臣就任と挫折

あとがき 二四三

主な引用、参考文献など 二四六

# 凡例

一、引用資料の漢字は現行の字体に、また、片仮名は平仮名にあらためたが、歴史的仮名遣いはおおよそもとのままとした。また、ルビ、句読点は適宜入れ、改行などもおこなった。

一、本文中では主として元号を用い、必要に応じて西暦を注記した。本書のテーマからして、そのほうが読者に便利との考えからである。

一、皇族の宮号、名前、称号はそのつど記した。やや煩雑かもしれないが、正確を期すためである。ただし、混同のおそれがないときなどは、そのうちのどれかだけを記したところもある。また、宮号や名前が変わった場合は、その時々のものを記した。

一、年齢は満、数えの別が必ずしも厳密でないところもある。

一、敬称、敬語は略した。